

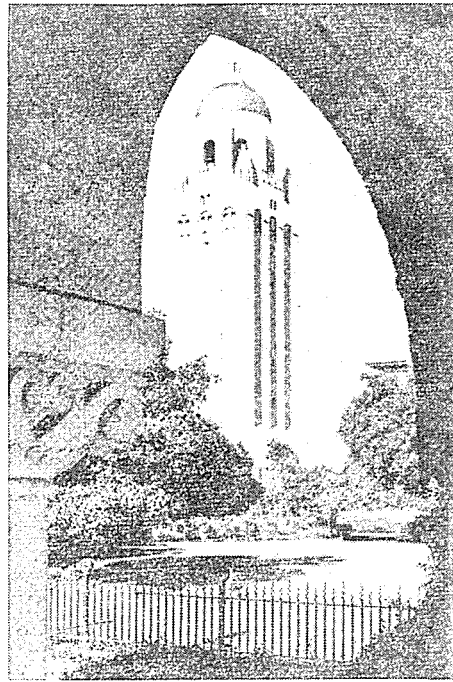
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Jan. 30th, 1960, No. 335.

通卷三三五号

關西大學學報

昭和35年1月 第335号



「日本私立大学経営者セミナー」
の行われたスタンフォード大学

關西大學出版部

アメリカにおける

大学教育の運営

——第二回「日本私立大学経営者セミナー」に参加して——

池田信之助
学務局長

ロックフェラー財団の厚意による「日本私立大学経営者セミナー」(Stanford Seminar For Business Administrators of Privately Supported Japanese Universities)に参加出張を命ぜられ、一行の人々とともに私がパン・アメリカン機でアメリカに渡つたのは昨年六月十九日でありました。

このセミナーのスケデュールは、サンフランシスコ市の近傍のスタンフォード大学における六月二十二日より二週間のセミナー参加と、七月六日から三週間のアメリカ各地の大学の訪問見学並びに各著名大都市や名勝史蹟等の観光と、更に七月二十六日から一週間オマハ大学で開催された「ビジネス・マネージメント・シエート・コース」(Business Management Short Course)の聴講とで、サンフランシスコを振り出してアメリカ各地を一巡して、再びサンフランシスコ、ホテルを経て帰国したのであります。その間訪問したのは、スタンフォード、カリフォル

ニヤ、サウザイン・カリフォルニア、クレアモント、レッドランズ、シカゴ、ノースウェスタン、アメリカン、コロムビア、ハーバード、ラドクリフ、オマハの十二大学、アメリカ教育局、国会図書館、日本大使館、ロックフェラー財団本部、国

際連合本部等でありまたサンフランシスコ、ロスアンゼルス、バークレイ、シカゴ、ワシントン、ニューヨーク、ケムブリッジ、ボストン、オマハの諸都市、ヨセミテ国立公園、ナイヤガラ瀑布、レキシントン、コンコード等の名勝史蹟でありました。さて、六月二十二日から七月一日まで行われたスタンフォード大学でのセミナーの講師は、全員同大学の教職員であつて、講義は連日午前九時から午後四時まで続けられ、各講義の後には必ず質疑応答があり、また講義の合間には臨時に我々だけの研究会が再々開かれました。

講義題目及び講師は次の通りであります。
「歓迎の辞」

経営学大学院部長 アーネスト・C・アーバクル氏
「単科及び総合大学経営の原則」
教育学部大学教育教授 ウィリアム・H・カウリー氏

「長期財政計画」

会計部長 ダンガン・I・マックフアデン氏

「教育機関への寄附を促進するための税金の役割について」

事務次長 ダリル・H・ピアソン氏

「大学の発展」

事務次長 リチャード・F・オプライエン氏

「予算計画」

総長補佐 ケネス・M・カスバートソン氏

「事務局職員」

人事部長 ジョセフ・C・スクロックス氏

「事務局の活動」

事務局長補佐 S・F・ポスト氏

「予算調整と会計」

会計補佐官 ケネス・D・クレイトン氏

「物品購入」

物品購入部 ファイリップ・G・ダツファイ氏

「調査関係予算と運営」

大学院学長 アルバート・H・パウカー氏

「図書館運営」

図書館長 レイナード・C・スワンク氏

「図書館運営」

経営学部附属ジャクソン図書館長
マリオン・M・スミス女士

「記録資料の管理」

経営学部会計学助教授

シラルド・O・ウエントワース氏

「授業料等学生支払の決定と徴集」

会計学教授 ライル・E・ジャコブセン氏

エルマー・C・ワグナー氏
 会計部長
 ロバート・O・ホウトン氏

以上講義題名が示すように、それぞれ内容は異つていますが、いずれも我々にとつて興味ある問題を含んでいて深い感銘を受けました。定刻になつて講義が終了した後も引続き質問が頻発し、討論のために時間がいつも延長される有様でありました。

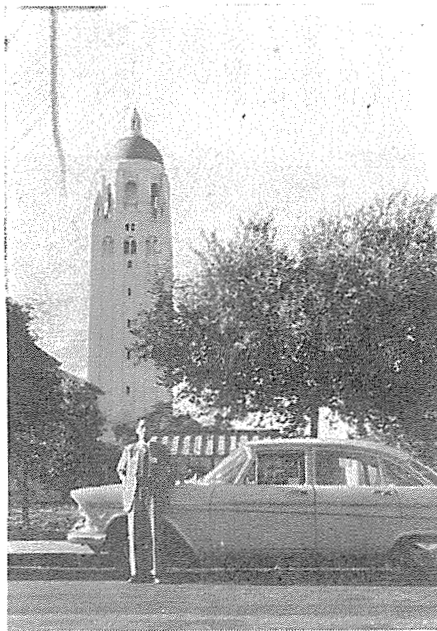
スタンフォード大学のセミナー終了後各地の諸大学を視察した際、各大学の総長や学部長あるいは行政事務担当者の人々から、大学の組織とか経営の実際面について、また将来の構想について、種々有益で示唆に富んだ説明を聞くことができました。特に七月二十六日から三十日までオマハ大学で開催された「ビジネス・マネージメント・ショート・コース」で聴講したクレアレンス・セツプス氏の「基礎的講義」、ハロルド・ハーマン氏の「パブリック・リレーションズ」は実のある講義であつたし、私自身にとつて関心の深い問題を取扱つたものであつたので傾聴しました。

以上で日程の概略とセミナーの講義題目及び講師を紹介しましたが、その一つ一つについての詳細な報告は到底書き得ませんので省略し、特に強く感じたことの若干を申述べたいと思います。

アメリカでは大学教育に限られた少数の者のための特殊なものでなく、できるだけ多くの者に大学教育を受けさせようとしています。このことはアメリカ人全体の知識水準を高め、教養文化を昂揚することであつ

てそれがアメリカの産業を発展させ、ひいては社会、国家を繁栄させるものであるという考えに立脚しています。事実アメリカ社会の各方面においては、大学教育を受けた者を必要とする要求が強くなつて来ているようです。大学側としては大学で教える学術や技法が、社会の各方面で直ぐさま役に立つような学部学科を設け、課程を編み、そして教育しているようです。

学問についての考え方も非常に实际的であり、功利



フーヴァー・タワーを背景とする筆者(スタンフォード)

的であるように思われます。大学の学問研究というものが途方もなく深淵高邁なものであり、ある限られた特殊な人たちのみがそれに携わるといふようなものでなく、学問とは常識の体系化されたもの、または現実を解明するものであつて、要は人間生活を正しく幸福に、そして豊かに美しくあらしめるような真理を追求するものであるとしています。

大学の学術研究並びに高等教育の機関としての重要

性は高く認められ、それ故に優秀な研究、良き教育が達成し得られるよう、聯邦政府はもちろん、州政府、一般社会、大学の卒業生たちが物心両面にわたつて大学を援助するといった状態にあるようです。この国が富有であること、また教育事業への寄附に免税の措置がとられているということは、国家事情の相違はあれ、大へん羨ましいことでもあります。

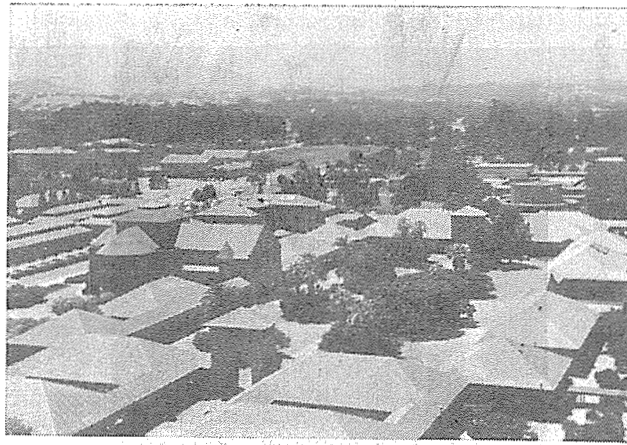
社会は刻々に進歩し、発展変貌して行きます。従つてこれに即応するため、また社会福祉に貢献するためには、大学は学術研究と教育に専念するだけの大きな努力を払わねばなりません。アメリカの大学では特にこの面について新しい学問分野が開拓されているように思われます。すなわち、アカデミック・スタッフ(Academic Staff)は学術研究と教育とに没頭し、大学経営の行政面はいわゆるノン・アカデミック・スタッフ(Non-academic Staff)が全面的にこれに当るわけです。更にいい換えるならば、アカデミック・スタッフが立派な学術研究の成果を挙げ、またよい教育を行つて優秀な卒業生を社会に送り、文化の向上に貢献するという大学の使命、目的のためには、ノン・アカデミック・スタッフは必要とする一切のサービスを担当するということがあります。ここでいうノン・アカデミック・スタッフとは、本学でいう教育職員以外の理事から臨時雇の職員までを含んだ職員を指しています。

シカゴ大学理学部副学部長は研究所事務職員について、「シカゴ大学には原子核研究所、金属研究所、電子計算機研究所、生物物理科学委員会があるが、各パパートにはそれぞれ基礎研究の成果をあげるためのサービス機関を設けその機関は科学者の研究に好ましいアトモスフィアを作り出すことを念願としている。研究者が研究そのものに専念できるよう材料の提供はも

ちろん、その他一切の世話をすることを任務と心得ている。それ故研究成果があることと事務機関がその研究学園の発展に貢献したという誇りと喜びを持つ。聯邦政府から研究助成金を受けているので会計検査院の面倒な調査があるが、その場合も研究員を煩わさず、事務機関の者が応答するほどで、研究者は何ものにも妨げられず研究に専念することができる」と語つていました。

以上はシカゴ大学附設の研究所だけのことでなく、他の諸大学においても同様でありました。かつてはアメリカにおいても大学の事務的な仕事は理事や学長や教員が処理していたのでありますが、今日のように大学が発展し組織が大きく複雑になると、その実情に即して諸般の運営が機能的に処理されることが必要となる。すなわち、理事会は大学の政策を決定し、その経営上の財源拠出の責任機関となり、学長を任命して、そこにビジネス・マネージャーを置き、大学の行政事務全般を委託し、一方学長及び教授は学術研究と教育に関して社会の要請に応える責任があり、またそれを有効に援助するのがビジネス・マネージャーの責任ということになります。そして全体的には大学内の諸種の機関によつて作成された予算書——金銭で示した教育計画——が学長より理事会に提出され、精密な検討を受けた後、それが理事会において承認されると、大学全般の運営が軌道に乗つて渋滞なく活動するという仕組みであります。大学経営責任者である理事会は大学の学術研究と教育の成果に対して非常に峻厳であるが、これは既に人的物的に凡ゆる施設が整備充実され、研究上教育上好ましい環境を提供しているからであつて、決して無理な強要や批判をしているのではありません。例えば大学の予算に計上され

た教育研究上の新規計画は、それが正しく妥当なものであれば、理事会はその施設を充実整備するのであります。「ある教授がある研究を計画すると、その場合その研究が意義あるものならば必ず実現することができる」という程に、公、私の助成援助が与えられるのであります。



スタンフォード大学の一部

また、大学の対社会活動の一つとしてパブリック・リレーションズがあります。大学のパブリック・リレーションズとはその大学の真の姿を社会に示す行動であつて、いうところの宣伝ではありません。組織体は卒業生で、優秀な卒業生が社会の各界層に活躍している大学が評価の高いことは当然であります。粗悪な製

品を生産したのではその会社が如何に宣伝しようが、容器や意匠に凝ろうが、逆効果に終ると同様で、学生を自然に吸引しよう努力しています。単に野球が上手だとか、フットボールがうまいとかでその学生を優遇するようなことはいけなとも云つていました。

学生の修める単位もまた形式的な内容空虚なものでなく、実際に充実したものであります。学生は十分に整備された施設と指導者を得て、知識と教養を身につけ、社会に出て活躍します。アメリカの公立大学は日本とは異なり、市民の税金で経営されているため、却つて入学志望者の選択を許されません。従つて学生の学力には相当な差があらわれるのであります。入学後の学習指導は懇切入念を極め、一定の水準に達するよう努力させ、それでもなお及ばぬ者は退学させているようです。

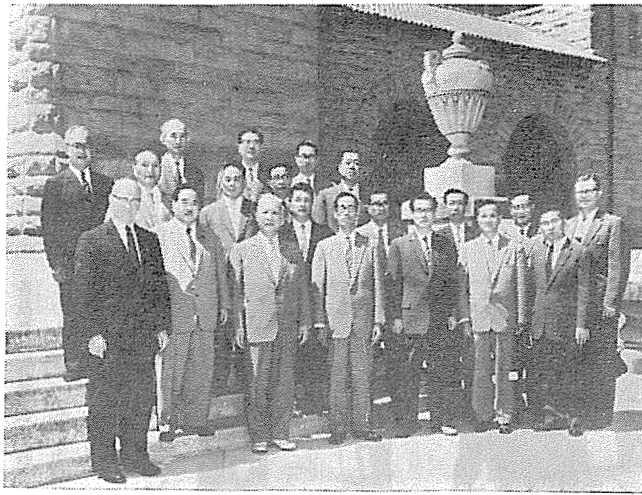
つまり価値のない名目だけの単位は与えない方針なのであります。大学のパブリック・リレーションズがその根本を卒業生にあるとしている精神がこのことについてよく理解できます。また、大学の真の姿を示すため、そしてそれに備するため大学の凡ゆるものが整備され、充実され、清掃され、まことに好ましい学問的雰囲気を作つており、学長や学部長や事務局長らは機会ある毎に社会に出て、一般の人々に大学を紹介し、大学に興味を持たせるよう啓蒙しています。

アメリカの各大学の規模の大きいこと、内容施設等の充実していることについては、私も既に聞いていてある程度の予備知識は持つていたのですが、現実それを眼にしては今更ながら驚歎せすにはいられません。私たちが接した大学関係の人々は親切で朗明であり、また大へん勤勉で服装等もまことに質素なものであります。日常生活は合理的で能率的に行われ

ているように見受けました。能率的といえ、教授の授業態度の厳正なこと、授業時間の始終の厳格に守られていることは驚くばかりで、私たちのセミナーの場合でも正味六十分の講義が一分と雖も早く終つたこととはなく、質義応答のために時間がオーバーすると、次ぎの講師が時間通り来てその終るのを待つてゐるといふ有様でした。講義は一時間、演習は一時間三十分を一時限としてゐると聞きましたが、正味一時間の講義は教授も聴く方の学生も相当疲れるので、これが一限界だとしてゐるのです。教職員のサラリーやその待遇については、各人の才能、能力如何によつて昇進、昇給が行われ、助教授以下の人たちは二年あるいは三年を一期とした契約に基いて採用されるということもスタンフォード大学及びその他若干の大学で知りました。

事務局は予算の編成をはじめ、その実施、ドミトリ、食堂、ブックストア、出版等の附帯事業の経営、警察、消防署の運営、基金の募集、基金の投融资、寄附金の募集、所有地の開発、公私研究所の資料、設備等々、実に膨大な業務面を担当してゐます。大学のビジネス・マネージメントを如何にすればより効果的であるか、能率的であるかが経営学、会計学専攻の教授実務家たちによつて研究されており、このことはオマハ大学での「ビジネス・マネージメント・ショート・コース」が、過去十ヶ年間毎年開催され、殆んどアメリカ全土より各大学のビジネス・マネージャーが、その研究のために集つてくることによつてもわかります。今日、アメリカが世界を指導する二大陣営の一方のリーダーとして重きをなしていることは、その豊富な国力だけに因るものでなく、彼らの勤勉、研究熱心等による実力の然らしめるところでもあらうかと考えら

れます。すなわち、相手国たるソ聯に対しても熱心な研究が行われ、各大学に於いてソ聯研究の講座を開いたり、また大学内の図書館、書店、市中の書店にもソ聯関係の各種の書物が多く見られました。力による制覇は不可能であり、結局学問技術と教育によつて正しい指針的役割と責任とを果そうとしてゐるのでしよ



セミナー記念写真（スタンフォード大学正面玄関）

う。将来は教育競争の時代であるといつていました。私のアメリカ出張は六週間の短い期間ではありましたが、その間見聞しましたことは、私の生涯の中まことに偉大な、そして貴重な体験として忘れ得ないものです。顧みて、私にこのような機会を与えられた大学当局の人々に心から感謝を捧げる次第であります。

学会便り

日本国際政治学会

千里山第一学舎で

日本国際政治学会一九五九年度秋季研究会並に公開講演会は十月十二（月）、十三（土）日の両日に亘り、本学千里山第一学舎教室、講堂及び朝日新聞社講堂で関係学者多数参加して盛大に開催された。研究報告の次第は左の通りである。

研究会（十二日）

自由報告

「ラテン・アメリカの視察報告」

近畿大学助教授 小林 新

主題報告「ソ連外交政策の研究」

「リトビノフの解任とソ連外交の転回点」

神戸大学教授 尾上 正男

「フィンランド戦争」

東京大学大学院博士課程 百瀬 宏

特別報告

コロンビア大学東亜研究所

政治学部助教授

ジェームズ・ウィリアム・モリー

公開講演（十日）

一、大阪・中之島朝日新聞社講堂にて

「安保条約改正について」 神川 彦松

「世界政府の構想について」

京都大学教授 田畑茂二郎

二、第一学舎講堂にて

大阪アメリカ文化センター館長

Howard Biggsstaff

「安保条約の改正」

京都大学教授 田岡 良一

学内報

臨時評議員会並に互礼会

学校法人関西大学寄附行為第十八条第三項による臨時評議員会は、一月十四日(木)午後三時より天六学舎において開催され、左の議案につき審議した。

第一議案 理事一名補充に関する件

第二議案 私立学校振興会より借入金
の担保提供に関する件

第三議案 昭和三十四年度賞与支給率
変更に関する件

なお、臨時評議員会後引続いて、互礼
会が和やかに催された。

出席者(敬称略五十音順)

- 阿部基吉 池田信之助 今井康兼 岩
- 佐清三郎 植野都太 浦野健二郎 江
- 里口春志 大小島真二 大島武夫 大
- 森俊次 岡野衛士 織田佐代治 榎木
- 信雄 門上敏夫 神宅賀寿恵 河野稔
- 佐伯五郎 白川朋吉 関豊馬 竹沢喜
- 代治 寺西武 寛田知義 戸根泰雄
- 中石清一 中務平吉 長尾昇 長柄金
- 吾 浪江源治 西村治三郎 西木寛一
- 東浦栄一 久井忠雄 福島四郎 本多
- 喜慶 堀正人 松原藤由 松村睦鴻
- 三島律夫 水谷揆一 宮崎平 三好万

- 次 村尾静明 森川太郎 矢口孝次郎
- 保井剛一 矢野文雄 横田健一 吉田
- 鹿之助 吉富二郎 渡辺正人

松原 教授

理事に就任

一月十四日の臨時評議員会において、
第一議案理事一名補充に関する件を慎重
審議の結果、経済学部松原藤由教授を選
任することに満場一致し、同教授が理事
に就任した。

なお、この理事一名の補充は、評議員
会で理事に選任された矢口孝次郎教授が
学長に就任し、同時に寄附行為第七条第
一号により当然理事たるので、評議員会
選出理事の欠員を生じたためである。



松原 理事

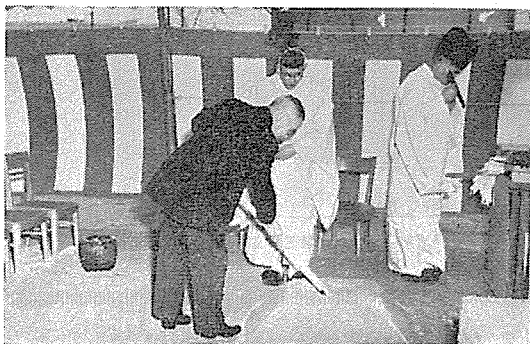
略歴

昭和十四年関大経済学部経済学科卒、
大学院にて経済政策論研究、昭和十八
年関大講師、助教、教授、専門部学
生部長、学部学生部長代理、昭和三十
一年在外学術研究員として一ケ年間英
米に留学、帰朝後、教養部長代理、大学
院兼務、関大経済政治研究所研究員、
経済学部長代理、評議員

工学部本館新築 地 鎮 祭

工学部本館を第三学舎隣接地に新築
することになり、その地鎮祭が一月十六
日(土)午前十時より理事長、学長はじめ
各役員、評議員、教職員、関係者多数列
席のもとに、吹田市垂水神社神宮により
厳かに挙行された。

玉串奉奠者(本学関係者のみ)
神宅理事長、榎本評議員(評議員会代表)
矢口学長、田中工学部長、長柄校友会副会長



神宅 理事長の穿初

なお、工学部本館の建築概要は、鉄筋コ
ンクリート造四階建一部地階付、延面積
七、一五九・一平方メートル(一、六五坪六三)で
ある。

日本法社会学会 千里山第一学舎で

日本法社会学会第二十三回大会は、十
月十六日(金)、本学千里山第一学舎教室
及び講堂で盛大に開催された。

研究報告の次第は左の通りである。

- 四教室 研究報告(午前九時三十分～正午・於第一
- 「冤罪禁止法の裏面」 近畿大学 前田信二郎
- 「国家と村落」―学区制度をめぐり
その相互形成― 東京都立大学 千葉 正士
- シンポジウム(午後二時～五時)
「裁判批判」司会 大阪市立大学 黒田 了一
問題提起者 熊倉 武
- 「英米に於ける裁判批判」 東大 伊藤 正巳
「裁判の認識構造と裁判批判」 京大 市場 安治

- 公開講演会 弁護士 毛利 与一
- 講師 東京都立大 榎 孝一
立命大 天野 和夫

なお、本学関係では岩崎卯一教授、浪
江源治員外教授、横塚次助教授、松本輝
男専任講師、岸井貞男、沢井裕、曾野和
明各助手。

中助教授 渡 欧

法学部中義勝助教授は昭和三十四年度
在外学術研究員として、一月二十二日
(金)「はと」号にて大阪駅発、同二十四
日十三時羽田空港発エールフランス機で
渡欧した。

なお、同助教授は「消極的構成要件の
要素の理論」をテーマとして、主として
西ドイツのボン大学で学び、後ロンドン
ローマ各大学を歴訪する予定。

昭和三十四年度卒業論文題名 (1)

文学部

文学部では、毎年卒業に際し卒業論文を提出することになっているが、昭和三十四年度卒業論文の論題提出者数は別表のごとくで、また一月十七日迄に提出された論題は次の通りである。

区分	科別							合計
	英文	国文	哲	仏文	独文	史	新聞	
卒業論文者数	91	128	20	20	14	66	113	472
卒修届出者数	77	108	17	17	12	56	106	410

区分	科別							合計
	英文	国文	哲	仏文	独文	史	新聞	
卒業論文者数	48	53	17	2	3	29	20	176
卒修届出者数	39	43	12	2	1	27	18	146

英文学

作品「ハムレット」に於る内容及び構造について

浅田 恭三

シェークスピア作品集について

荒木 弘

O. ワイルドとその近代芸術観について

朝日 幸保

“A Farewell to Arms”を中心として Ernest Hemingway 研究

井上 憲彦

R. W. Emerson に於て

井上 隆博

ギリシヤ神話に於るユリシイズと現代のユリシイズ

宇佐美 二郎

Erewhon

大坪 精治

D. H. Lawrence の作品についての一考察

太田兼三郎

シェークスピア作品研究「ハムレット」についての研究

尾崎 猛夫

エミリー・ブロンテと彼女の作品「嵐ヶ丘」について

鍵山 安正

ヘミングウェイの研究

鍵山 安正

角木 竜

アメリカ文学を中心としたヘミングウェイ作品研究

家納 一

コナン・ドイル作品に見る文学的位置

川端 岑生

「メルヴィル白鯨」について

北 殖之

チョーラーのコントラバリー物語について

北川 浩

トーマス・ハーディ自然観の一考察

久保 慶典

サマセット・モームの人間観

小日置文雄

Ernest Hemingway の創作への一考察

近藤 成之

It の歴史とその用法について

坂上 和之

Lafacadio Heann (自称：小泉八雲氏)の作品を通しての日本観(熊本時代を中心に論旨を転開する)

坂田 秋光

ディッケンズの作品研究「デイヴィッドコバフィールドと大なる遺産」について

佐々木勝三

戦争と虚無——武器よさらば——

笹部 京子

Gane Austen の Pride and Prejudice について

坂本士佐男

Ernest Hemingway 論 (E. Hemingway 研究及び女性論)

島木 和彦

ローレンスの人生観と社会関係

新藤 武義

Shakespeare とその作品 Hamlet について

高見 忠造

(以下次号)

アメリカ国会図書館より

機関誌 寄贈

アメリカ国会図書館 (The Library of Congress) よりこの程左記機関誌を寄贈して来た。

Quarterly Journal of Current Acquisitions, Volume 17, November 1959, Number 1.

教授

風巻景次郎氏逝去

本学文学部兼大学院教授風巻景次郎氏は、病氣加療中のところ、薬石効なく、去る一月四日逝去された。

氏は大正十五年東京帝国大学文学部国文学科卒業後、同年日本大学予科講師、昭和二年大阪府女子専門学校教授、同年長野県女子専門学校教授課長、同十年日本大学文学科講師、同十一年東京音楽学校講師、同十三年同校教授、同十九年清水高等商船学校教授、東京音楽学校教授、同二十一年法政大学講師、北海道大学教授、同二十五年同大学評議員、同二十八年同大学院教授、同大学院文学研究科担当、同三十二年同大学附属図書館長、同三十三年より関西大学教授となり大学院兼務。

また、著書論文は枚挙に遑ない程多数にのぼり、特にそのうち、「新古今時代」、「謡曲」、「中世の文学伝統」、「文学の発生」、「神々と人間」、「日本文学史の構想」、「日本文学史の周辺」等が有名である。

お伊勢風土記

——(その一、お蔭参り)——

安井章吾

秘書室長

古来、お伊勢参りに三義があつて、次の様に分類される。

- 第一義—日本の総氏神としての敬神
- 第二義—成年に達した者の社会見学
- 第三義—狂信的な団体としての敬神

第一義的のものには

- 日と照らし土とかためてこの国を内外の神のまもる久しき
- (後小松天皇御製)
- かしこしと仰ぐ言葉もいでやらで御代を祈るも袖は露けし
- (勅使、葉室顕考)

深く入りて神路の奥をたづぬれば
また上もなき峰の松風

(西行法師)

第二義的のものには

春めくや人さまさまの伊勢参り
(芭蕉門、荷かき)

お伊勢なゝたび 熊野へ
三たび 愛宕(お多賀)さ
んへは 月参り

(上方催調)

伊勢参宮大神宮へも一寸
より

(川柳)

第三義的なものには

伊勢へ行きたい 伊勢路
が見たい せめて一生に
一度でも

(伊勢音頭)

エシヤナイカエシヤナイ
方節

(お蔭参り節)

さて、お蔭参りとは江戸時代以降に
起つた参宮の特異な現象であつて、諸
国に伊勢の神宮大麻(おほらいさん)が降
つたという、不思議な出来事が伝わる

と、百姓も持つている鎌を投げ捨て、
丁稚は算盤を放り出し、われもわれも
と、仕事を放棄して伊勢参りをしたも
ので、慶長年間に各地で伊勢踊りが流
行したあとをうけて、寛永十五年(一六



伊勢市の入口(宮川の渡)

襲来した、狂信的群集の伊勢参りであつた。
「神異記」によると、宝永度の参宮
の群集は三百七十五万九千人、明和八
年四月から八月にかけての四ヶ月間に
神都の入口である「宮川の渡」を渡つ
た人が、二百七万七千四百五人、文政
十三年の春から秋へかけての半歳の人
数は、四百五十九万九千五百五十人とい
う龐大な数字であつた。

慶安三年(一六五〇年)に箱根の関所
で、参宮人を調査したことがあつて、
それによると、正月から花の三月にか
けて大神宮へ向つた関東人の男女は、
一日に五六百人から九百人、春開けに
つれて四月から五月になると、一日に
二千人を越えたのである。(伊勢神宮の祭)
奥州、関東、北陸路の人は桑名の宿
場から津を経て、京方面からは「坂は
照る照る鈴鹿は曇る」の、あの鈴鹿山
を越えて関から、西国からは初瀬街道
吉野街道を通つて松阪で合流し、伊勢
へ伊勢へと大河の流れの様な大群集と
なつて、神都へ入つたのである。

その殆んどは徒歩であつて、諸國の
団体毎に「おかげ参り」と書かれた幟
を持ち、中には駕籠するもの、三宝荒
神の馬(馬の左右及び背に箱のようなものをつけ
三人乗とする鞍を着ける)に乗る者、ごまの
輓(すり)乞食などが錯綜して、街道筋

三八年)を最初に、慶安三年(一六五〇年)、
宝永二年(一七〇五年)、明和八年(一七
七二年)、文政十三年(一八三〇年)、安政二
年(一八五五年)、慶応三年(一八六七年)
と六十年位の間隔を置いて、周期的に

は混然とした人の渦であつた。

これらの人々は、老若男女の差別なく次の様な「エシヤナイカ節」を唄ひはやして参宮をした(正統神都百物語)。

- 一、正直に神のまつりをする人は子孫繁昌すればエシヤナイカ
- 二、にぎやかにお蔭参りが始まりて日に正直の祓いエシヤナイカ
- 三、さりとはおそろしき年うちおすれ神のお蔭で踊りやエシヤナイカ
- 四、御本宮あゆみを運べ此度は末も繁昌すればエシヤナイカ
- 五、老人も婢も子供も皆踊れ繁昌、繁昌とうたやエシヤナイカ
- 六、はじまりも終りもしらぬ此度のおかけ踊りは是もエシヤナイカ
- 七、国々へあまた降ります御祓は御代も治るしるしエシヤナイカ
- 八、下々へ祓ふらるゝお蔭やら一合四勺もわすれエシヤナイカ

其他あれども省略。

「見聞録」には「慶応二卯年八月中旬頃より伊勢国村々へ、不思議に両宮の御祓始め其他社寺の守札等が家々へ降り、御祓が授かつたというて、貴賤の別なく家相応に祝として、酒肴を出し振舞える事言語に尽しがたく、富家にては百両、二百両位の振舞にて、男女老幼差別なく、はやり歌を誦い「エシ

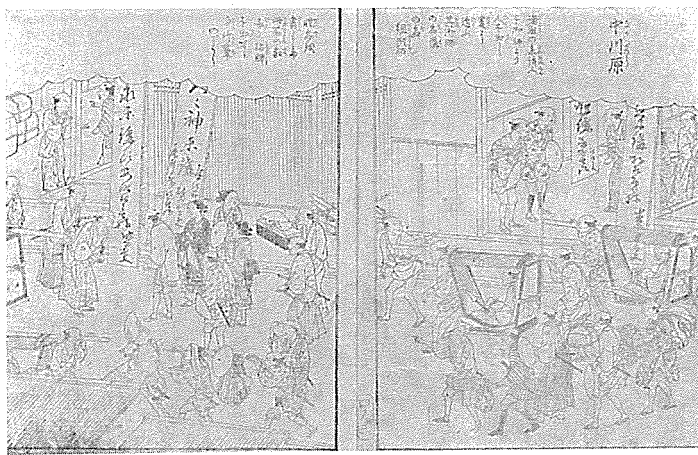
ヤナイカ」と云いはやし、大勢集り踊るやら、村々は男女老人の別もなく、多人数打ち連れて家々へ踊りあがり「エシヤナイカエシヤナイカ」と誦いはやし、賑やか事言語に述べ難く、当国はいうに及ばず、隣国よりも轍など持ち両宮へ御蔭参りに来ることに夥ただしく、当国村々は表飾り揃い、其他いろいろのかざり物、轍などにて追々参宮に来ること前代末聞の事なり」

伊勢の地元では、この路銀も持たぬ大群集に対して、いか様に救難の手を差しのべたか、部分記録として、朝熊山の万金丹(粟尾)本家である野間園彦家の、(文政お蔭参り雑記)によると、野間家施行粥の高が六十石、施行宿の人数が二千百六十五人。

神宮祠官井阪徳辰氏(雜錄第十九)にも吾郷町在よりの施行云々として、明和八年四月廿日白米三十五俵一人前握飯一つ宛、伊勢山田一志久保町同月廿五日白米五十俵、宮後町馬六百疋、駕輿六百挺、山田町々三万人、但し廿日間一夜千五百人施行宿(無料宿進)は御師淡路家(天世竜大次)とある。

この他「神異記」には草鞋、笠、杖の類施行の数も計記されている。

慶応度のお蔭参りには、市中雑踏その極に達せるため、次の「山田奉行達し」が町会所宛にあつた。



伊勢御師の参宮道者出迎え

右牀之儀者銘々相慎可、申勿論火用心入念可、申事。
以上の通り、お蔭参りは普通の伊勢参りとは異なるものであり、普通年の伊勢参りとは、封建時代の拘束された(江戸時代には町々に本戸が設けられ、夜間定刻を過ぎると通行も出来ないし、町年寄、寺請けがないと旅も出来ない)生活から脱け出すために、成年に達すると伊勢の情覚えと云つて、伊勢講に入つて旅費を積み、社会見学として、伊勢路の宿場宿場の旅を楽しんだものである。

伊勢ではこれらの人々を参宮道者と呼んで、御師(伊勢ではオンシと発音)の宿は賑わつた。

御師は師職とも云い、そこで道者達の家運繁昌または長寿の祈禱を行つた。明治以前は、神宮で御神楽を奏して祈禱するのは帝のみであつて、其他は將軍家、公卿、大名と雖も、この御師の館で行うのが例であつた。

その御師の家にも次の階級があつて数百人の道者を取容する大家あり、数十人取容の小家あり区々であつた。

- 一、福宜家の営むもの
 - 二、宇治年寄と山田三方(さんぱんほう)の営むもの
 - 三、平師職
- 一般大衆は、大体平師職に宿をとるのが常であつた。

此頃御祓等降下候に附而者、両宮参詣者当然之儀に候得共、町在共家業を打捨て酒宴相催し、中に者金鼓の類相用ひ、大造騒立候向有之哉之儀相聞、御時節柄如何之事に附、

(未完)



生 学

司法試験等合格者

毎年東都諸大学とその数を競つて優秀な成績を示している司法試験合格者は本年度、左の諸君が栄冠をかち得た。

- 今中 利昭 (昭33 一法卒)
- 亀田 利郎 " "
- 兄玉 憲夫 " "
- 板東 平 " "
- 安田喜八郎 " "
- 家近 正直 (昭31 一法卒)
- 岡 時寿 (昭28 一法卒)
- 鷹取 重信 (昭26 二法卒)
- 船越 孜 (昭30 一法卒)
- また公認会計士試験には
- 谷井 正弘 (昭34 一商卒)
- 浅野 照雄 (昭32 一法卒)
- 神崎 満 (昭26専一商卒)
- 堺 博 (昭25専二法卒)
- 江本 弘 (昭34 二商卒)

が、大阪府庁上級職採用試験には、

- 高田常三郎 (一法)
- 福家 一行 (一法)
- 森永 剛平 (一法)
- 吉房 康幸 (昭33 二法卒)
- が、大阪市幹部職採用試験には
- 大久保朝行 (大 学 院)
- 瀬川 信成 (一法)
- 添郷 栄 (昭33 二法卒)

初優勝の栄冠 馬 術 部

全日本学生馬術王座決定戦は十二月二十一日、二十二両日東京馬事公苑で開かれた。全国五地区で勝ち進んだ代表校、成蹊大(関西)、熊本大(四国・九州)、愛知大(北陸・中部)、北海道大(東北・北海道)に伍して本学(関西)は善戦よく初優勝を遂げた。

成績左の通り。

第一試合 関大100.00 対 100.00 熊本大
 第二試合 関大100.00 対 100.00 北海道大
 第三試合 関大100.00 対 100.00 愛知大
 第四試合 関大100.00 対 100.00 成蹊大
 (得点は減点法)

なお、二位以下の順位は次の通り ②成蹊大2勝2敗
 ③北海道大2勝2敗 ④熊本大2勝2敗 ⑤愛知大1勝3敗
 なお、本学から出場したのは大谷、中井、芝本、三浦、小沢、久井の各選手である。

スピードで優勝 スケート部

第八回関西学生氷上選手権大会スピード競技は一月六、七両日にわたり長野県松原湖で行われたが、優勝で関学大と接戦をみせた本学は5秒の差で一位となり、二連勝の栄を飾った。

なお、五千メートルで飯田選手の9分3秒8は大会新となつた。

戦績左の通り。

- 五百米 ①高津(関学) ②川島(関大) ③藤田(関大)
 - 二千米 ①佐野(立命) ②飯田(関大) ③根木(関学)
 - 五千米 ①高津(関学) ②岩島(関学)
 - 五千米 ①佐野(立命) ②飯田(関大) ③根木(関学)
 - 二千米リレー ①関大(川島、奥神崎、飯田) ②関学(同大)
- 順位 ①関大38点②関学35点③立命21点

三年連続優勝 バドミントン部

第十回西日本バドミントン選手権大会は一月六日から、西日本、九州、四国の選手を集めて、熊本県菊池市菊池高校体育館と七条村七条中学校体育館で行われたが、本学は期待にそむかず、単、複ともに善戦、遂に三年連続して優勝の栄冠をかちえた。

戦績左の通り。

青年男子単決勝
 松 王2(1515-12) 0 回 信
 複決勝
 松 王2(1515-19) 0 本郷
 信2(1515-17) 0 熊本

(11頁より続く)

ほり、各学校、学科、年代別に公正に選考された。なお、新代議員による第一回代議員会は一月十八日に開かれ、その席上、常議員・監事の選出について協議された。

農林省大阪食糧事務所関大会
 農林省大阪食糧事務所関大会では十二月十二日に同事務所鶴ヶ丘分室で総会を開いた。



農林省大阪食糧事務所関大会

当日、代表、伊達重雄氏はじめ会員十数名が出席。この会では三カ月に一度の割で常に密接な連けいを保つため、懇親会を開いて成果をあげているが、今回はその例会と忘年会をあわせて行つたもので寄せ鍋を飲んで親しく母校を語つた。



校友会

校友会の動き

十二月

- 三 日 西淀川支部総会
- 四 日 神戸支部総会
- 泉大津支部総会
- 五 日 電々公社関大会総会
- 高石支部発会式
- 九 日 代議員選挙委員会
- 十二日 農林省大阪食糧事務所関大会
- 十七日 代議員選挙委員会
- 二十四日 広報部会
- 二十八日 財務部会

西淀川支部総会

大阪西淀川支部では十二月三日午後六時半から歌島橋の中小企業会館で総会を開催。

当日校友会から榎本副会長が出席して大学の近況や校友会の現状を報告。この地域は大阪市内とはいうものの連絡が不便なため活発な活動をするのに相当苦心しているが、この総会には約三十名が集って盛会であった。

神戸支部総会

神戸支部では十二月四日午後六時半から市内のロシヤ料理店「ワシリー」で総会を開いた。



神戸支部総会

当日は母校から矢口学長をはじめ、先頭学位を得た安田、高木両教授が出席、また校友会宝塚支部から谷口支部長、神戸屋敷校友会事務長も出席、合せて約七十名が集った。

向井副支部長の司会で始められ、山崎支部長から三教授に対して祝辞がのべられた。矢口学長はあいさつの中で私学に於ける校友と母校の結びつきが特に大切なことをのべ、校友会活動の活発化をよろこんだ。

事業報告、会計報告がともに承認され議事を終了して親睦会に移り、なごやかな雰囲気の中に会は進み、最後に各自

近況をのべ、学歌を斉唱して午後八時半閉会した。

電々公社関大会総会

近畿電々公社に勤務する校友で組織されている電々公社関大会では、十二月五日午後三時から千里山学舎で総会を開催した。当日会員一三〇名が二台のバスに分乗して会場に到着、矢口学長、天野図書館書目課長、校友会榎本副会長の出席を得て開かれた。

まず代表、辻義満氏のあいさつがありつづいて会務報告、会計中間報告、会員増加の対策などが上提された。

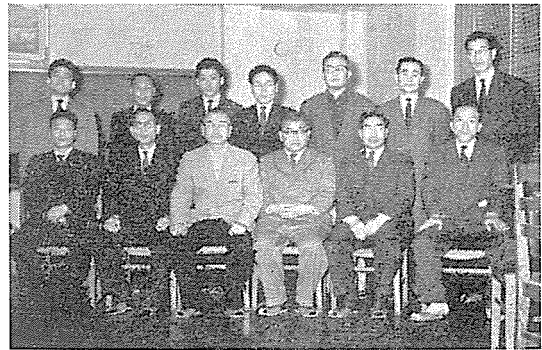
矢口学長の祝辞、榎本副会長のあいさつにつづき、天野氏から国際図書館協会年次総会出席時のようや欧州各地の図書館の現況について興味深い話があった。

学舎見学のあと映画を観賞し、懇親会を開いてなごやかに話しあい、午後八時閉会。

高石支部発会式

大阪府泉北郡高石町に在住する校友の間で支部を組織しようという動きが相当以前からあり、再三合会を開いて準備を進めていたが、十二月五日午後六時半から羽衣学園会議室で発会式を開いた。

大学から中山校友課長、校友会から門上組織部長が出席、会員約二〇名が参集会は松山博氏を議長に議事にはいり、



高石支部発会式

会則案を審議決定、役員を選出した。門上組織部長から校友会の現状を説明、懇親宴を最後に盛大な発会式をとじた。

当日決定役員
支部長 村木 実
副支部長 大藪公一、藤野己左雄、松山博
顧問 谷田俊二郎
相談役 北下徳蔵、藤原誠太郎、吉村進一

代議員選挙委員会

十一月九日の第一回委員会で代議員の選考を開始したが、以後委員会が十一月二十九日、十二月九日、十七日と四回にわたって開かれた。

その結果、昭和三十六年度定例校友総会までの任期をつとめる新代議員が決定した。こんどの代議員数は約八百名にの

(10頁下段)

昭和35年度 関西大学入学試験概要

学部	学科	人数		出願期間		試験日			
		(一部)	(二部)	(一部全学部)	(二部)				
法学部 経済学部	{ 法学科 政治学 }	400名	300名	出願期間					
		400名	300名	試験日					
文学部	{ 英国文学科 文学科 哲学 独文学科 新聞学 東洋文学 }	300名	150名	地方試験 (高松, 福岡, 広島, 金沢, 名古屋各地)					
				(一部全学部)...			昭和35年1月19日	2月15日	2月21日
				法学部	"	2月18日	2月21日		
				商学部	"	2月19日	2月22日		
				文学部	"	2月20日	2月23日		
商学部	{ 機械工学科 電気工学科 化学工学科 金属工学科 管理工学科 }	400名	150名	(試験科目)					
				法・経・文・商学部...国語、英語、社会、数学 (簿記) (二科目選択)					
工学部	{ 工学部 }	400名	(申請中)	工学部...理科(物理、化学の中の一科目)、英語、数学					

大学院	博士課程	研究科	専攻	人数	出願期間
				10名	昭和35年3月1日～3月26日
修士課程	研究科	{ 法学専攻 文学専攻 経済学専攻 }	4名	(試験日)	
			3名	昭和35年3月30日、31日(2日間)	
			60名	(試験科目)	
修士課程	研究科	{ 英国文学専攻 文学専攻 哲学専攻 日本史専攻 }	60名	博士課程...主論文、副論文、外国語	
			60名	修士課程...論文、外国語	
			50名		

なお、詳細については「昭和35年度関西大学学生募集要項」を参照して下さい。

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十五年一月三十日発行(毎月一回三十日発行)

関西大学学報 第三三五号 一月号

編集兼 久井忠雄 発行所 関西大学出版部 印刷所 株式会社ナニワ印刷所
電話(大阪)二六七二番 電話(京都)三五〇七二番 電話(東京)七二七二番

関西大学商学会編 関西大学商学論集 第四卷

昭和三十四年十月 A5判 七五頁

内 容

- 資本制社会における社会政策機能の二重性(一).....河野 稔
- 個別法と平均法.....清水 宗一
- シエアー商業経営学における商業学の科学化.....大橋 昭一
- について(二).....山上 達人
- レーマン「財務計画論」についての一考察(一).....山上 達人

関西大学経済政治研究所編 マス・コミの研究 第四部研究班 研究双書 第三冊

昭和三十四年十月二十日 A5判 五三頁

内 容

- 競争市場における購買者の商標評価の測定.....辻 岡 美延
- 中立性の問題.....井上吉次郎
- ジャーナリズムにおける記者の心的態度に
ついて—.....小川 隆 夫
- 新聞の「特殊指定」と「ABC加盟決議」.....小川 隆 夫